

自分が変われば

兵庫県

播磨町少年剣道クラブ

小学6年 玉越帆乃夏

今年は最高学年。キャプテンとしてチームをまとめて、去年行けなかった全国大会に出場するぞ！と稽古にはげんでいた。

しかし、新型コロナウイルスというおそろしいウイルスがはやったために、試合が無くなっただけではなく、稽古も出来ない日が続いた。目標が無くなり、みんなと出来る稽古が無いので家で素振りをしていたら

「声も出さないダラダラやる素振りならしなくていい」と、父と兄に言われた。

私は私なりにやっているのに…と腹が立ったけれど、兄が黙々と素振りやランニングをしているのを見て、私ももう少し頑張ろう…と素振りの本数が増えていった。

6月に入って稽古が再開され、みんなと一緒に稽古が出来るようになった。私もふくめ休み明けのせいか、みんな声も小さく、面を並べるなどの行動が遅いのが目立った。先生達からも、

「動くのが遅い。声が出ていない。高学年がしっかり見てやれ」と注意された。

私は唯一の6年生。キャプテンとしてチームをまとめなければならない。なので、

「頑張って声を出そう！ さっと動こう！」と、みんなに声かけをした。

それでも、やっぱり声小さく動かない子がいた。何度言っても伝わらずまともらない。私は稽古が終わるといつもイライラしていた。

「なんで私一人でやらなあかんの。他にも誰か手伝ってくれたらいいのに…」などとブツブツ言っていたら、兄に「人に頼るな。自分がやるべき事をしっかりやればいいねん。」と言われ、私は心の中で（6年、私一人やで。お兄ちゃんの時と同級生がいっぱいおったからいいけど、私は一人でやらなあかんねんで）と思い、ものすごく腹が立った。しかし、怒っていても仕方がないので兄の言うとおりにやる事にした。なるべく早く道場に行って面を並べる。時間通りに稽古が始められるように、小さい子の準備を手伝う。号令は、みんなに聞こえるように大きな声でかける。稽古中は、自分が一番になって声かけをし、他の子達にも「声を出そう！」と言った。そうすると、5年生の子達が声を出し始め他の子にも声かけをするようになった。それを見ていた4年生の子も、声を出すようになった。それからだんだんと声を出す子達が増えていき、行動も早くなり、少しずつまとまっていった。

これは普段、黙々と素振りをしている兄を見て、（私もあの素振りしてみようかな。しんどいけどもう少し本数増やそうかな）と兄の真似をして頑張ろうと思う私と同じだと思った。

前までは、稽古の度にイライラしていたがまとまってきた事で、稽古に集中でき楽しくな
っていった。

ブツブツと文句を言っていた私に「お前がしっかりすればいい。」と言った兄の言葉は、
自分が見本になってしっかりすれば他のみんなもついてきてくれる！という意味だったん
だと分かった。

心が変われば 態度が変わる

態度が変われば 行動が変わる

よく道場の先生がおっしゃっている言葉だが、今の私には大切な言葉だ。

自分の思い通りにならなかった時、私はすぐイライラしていた。それではチームはまとま
らなかった。しかし、怒った口調で言うのではなく、相手に伝わるように行動にうつすと、
少しずつチームがまとまっていった。

稽古再開時と比べ、私の心も変わったし、チームの心も変わったと思う。

みんなが同じ目標に向かって頑張れるように、これからも努力していきたい。